

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和4年5月30日(2022.5.30)

【公開番号】特開2022-22263(P2022-22263A)

【公開日】令和4年2月3日(2022.2.3)

【年通号数】公開公報(特許)2022-020

【出願番号】特願2021-189791(P2021-189791)

【国際特許分類】

C 0 8 G 1 8 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 8 G 1 8 / 3 2 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 8 G 1 8 / 4 4 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 8 G 1 8 / 6 5 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 9 D 1 7 5 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 9 D 5 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

C 0 8 G 1 8 / 0 0 C

C 0 8 G 1 8 / 3 2 0 2 5

C 0 8 G 1 8 / 3 2 0 0 3

C 0 8 G 1 8 / 4 4

C 0 8 G 1 8 / 6 5 0 0 5

C 0 9 D 1 7 5 / 0 0

C 0 9 D 5 / 0 2

20

【手続補正書】

【提出日】令和4年4月18日(2022.4.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

30

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリカーボネートポリオール(A)と、分子内に1個以上の活性水素を有し、かつ親水性基を有する化合物(B)と、2価アルコール(C)と、ポリイソシアネート(D)とを反応させて、NCO基含有ウレタンプレポリマーを得る工程と、

前記NCO基含有ウレタンプレポリマーと、2個の1級アミノ基と1個以上の2級アミノ基を有するポリアミン(E)とを反応させて、固形分の酸価が1~15mg KOH/gのポリウレタンウレア水分散体を得る工程と、

前記ポリウレタンウレア水分散体を含有する艶消し塗料を乾燥後膜厚が3~25μmになるように基材に塗布した後、乾燥する工程とを含む、
艶消し塗膜の製造方法。

40

【請求項2】

前記艶消し塗料は、艶消し剤を含まないか、又は、前記ポリウレタンウレア水分散体の固形分100質量部に対して艶消し剤を50質量部以下の量で含む、請求項1に記載の艶消し塗膜の製造方法。

【請求項3】

前記ポリカーボネートポリオール(A)に対する前記化合物(B)のモル比(B/A)を0.05~0.6とし、かつ、

前記ポリカーボネートポリオール(A)に対する前記2価アルコール(C)のモル比(C

50

/ A) を 0 . 4 ~ 2 とする、

請求項 1 又は 2 に記載の艶消し塗膜の製造方法。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の方法により製膜された塗膜。

【請求項 5】

表面に請求項 4 に記載の塗膜が形成された、プラスチック成型品。

10

20

30

40

50